



### 平地方発行新聞

#### 雑誌の現在と發行人(一)

時、歳末に當りて平地方發行者の雑誌を出して居る等々の新聞雑誌とその責任者ある。

を一束して觀る。夕刊では四ツ倉町の小林倉二氏の四の聲に意氣消沈して各事業を中止から此處に至れる事

新開 運沼龍輔、常磐毎日、外に平では諸根正一、國民生活の安定ありてこそ

新聞 川崎文治、新しいわき、氏東京に在つて平町を發行立派なる施政と言ひ得る

半谷政喜、右四社で横山顯氏は東京行て居り、山田政好氏は近々も稱し得るのである。今や

となつて東北日々新聞は廢刊となつて居る。日にして昭代第六の修正

月四回以下發行の部に入つて、通信執筆とか、平地方發行者の善處と國民の

て、各紙誌の執筆者特色文獻まぬ。

平紙刊以來筆者が聲中出の關係上警中母校や同窓

市島三、磐城中正新聞、湯本には中央新聞とかあつた會の件につきは善惡によ

安澤、磐城大衆新聞、長谷川、磐城公論、酒谷、磐城、たの齋藤氏磐城民衆新聞又を併せ、あり、彼那顯正

之時事、宇佐美友二、福島公論、安川、常磐タイム、發刊の準備中とかで明年の筆硯から反感や敵意を向

ス、高橋憲太郎、磐城調査の縣議改選を前にして石城、耳にもして居る……が

新報、馬目雅治、昭和新聞の文化業者益々累増の模様、己れの邪惡非常識を朝に上

高木忠三郎と本紙平新聞、陰に筆者の心腹を害する如

山野邊庄吉、右拾四社の機、を流布しつゝあり、引

で他に漏れたる分あるやも、てこの頃生れた××者があ

知れず、筆者の知る分は、るを耳にして居るが筆者は

右の如くである。

湯本町に入つて、不景氣、不景氣の聲の深刻

磐城自治新聞、箱崎義一、さを加ひつゝも昭和五年は

磐城村では小泉宗雄氏の聲、暮れんとして居る。吾人文

城立憲新聞が町村新報と改、化業者は忙しかつた午年を

題して發行人も酒井秀吉氏、顧みて、傳だ感深きもの

に代つて居る様である。

小名濱の日常新聞、伊正しく明るき政治を標語と

藤隆次氏は、どうなつて居、果して正しく明るく國民

深刻を加ふるに連れて日々長以下幹部諸氏の發旋と極現出する社會相はどうであらうか、失業者の群はどの自覺の下に圓滿に學事にならうか、これ徒らに緊縮勉勵しつゝある事は慶すべきであらう。中止から此處に至れる事

内科小兒科皮膚科

藤名醫院

平町紺屋町

電話五〇七番

味噌、醬油

平稅務署向通り

山野邊米店

電話呼出 一九三

X光線科

平南町電話一二九番

高久病院

電話五二三番

内科、外科診療一般

片岡醫院

片岡鎌三郎

電話二二三番

湯本町驛前通

七五三と年末  
福引大賣出し  
御買上一圓毎に福引一本呈上……  
十二月廿日より十二月卅日迄

#### 大評好

- 特等 三重桐箆笥
- 一等 銘仙、九帶、毛布
- 二等 瓦斯反物、紡績夜具
- 三等 クラブ石鹼三個入
- 四等 養生堂石鹼三個入
- 五等 綿風呂敷、石鹼

#### 景品

平町三丁目

中野呉服店

電話六七番

#### 液體空氣會社製

吸入用酸素酸素吸入器

罐體暖計開内藥局

電話四〇番

磐城セメント代理店

西村屋藥舖

平二一丁目

長電話番

#### 膽寫版附屬品一式

清水堂

清水堂

平町二丁目

電話百卅一番

學生外套持賣

酷寒にも強雨にも耐える生地・仕立

100%黒ラシャの外套の大特價提供

小學用 5圓50錢ヨリ

中學用 8圓50錢ヨリ

全部 頭巾付

あかや洋服店

平二 電203

謝恩福引大賣出し

十二月二十四日より二十八日迄 五日間

賞品

ラケット又は額縁

萬年筆

布製又はセルロイド製筆入

極厚ノート

木製筆入又ハ雜記帳

總數二千本……一本も空蔵なし

店舗改築記念として平素の御愛顧に報ひ度く

奉仕的福引大賣出しいたします

新年はがき、カレンダー、文字ハガキ

クリスマスカード、かるた、トランプ各種

例年の通り豊富に

取揃へました

平町四丁目

マルトモ柴田書店

電話 五二三四番

電話 五九七四番

金壹圓以上御買上の御客様に抽籤券一枚呈上

壹圓を増す毎に一枚宛増呈いたします

(書籍雜誌は組合の規定に従ひます)